

新型コロナウイルス感染予防の行動マニュアル

現在、日本を含め世界中で新型コロナウイルスによる感染被害が拡大しています。もし社内で一人でも感染者が発生した場合、社内の消毒だけでなく、濃厚接触者の一定期間自宅待機など、業務への相応の影響が予想されます。こうした背景から、自分の体調管理だけでなく、周囲に迷惑をかけないように、日頃からの感染予防の心掛けが非常に重要です。

1. 手洗い・うがいの励行

トイレなど屋内では石鹸による手洗いを行って下さい。アルコール消毒液の供給不安もあり、備蓄量が限定されていますので、屋内は石鹸を基本にして下さい。一方、屋外からのアクセスポイント（通路や、建物入口の自動ドア、エレベーター入口等）はアルコール消毒液を使って下さい。

2. 検温

入社前に必ず体温を確認してください。発熱状態で入社し、万が一コロナウイルスに感染していたら、職場の者にうつす可能性があり、非常に危険です。

3. 外出

できる限り人混みの多い混雑した場所を避けて下さい。特に、1.換気の悪い密閉空間、2.人が密集している、3.近距離での会話や発生が行われる、という3条件が同時に重なった場所に集団で集まることは避けてください。

4. 通勤

公共交通機関による通勤者はマスクを着用し、混雑した車両・時間帯は避けるよう努めてください。

5. 睡眠

十分な睡眠をとり、免疫を上げることも重要です。

6. 咳エチケット

マスクは、咳やくしゃみによる飛沫及びそれらに含まれるウイルス等病原体の飛散を防ぐ上で高い効果があります。咳やくしゃみ等、症状のある者は積極的にマスクを着用して下さい。また、ご自身の予防用にマスクを着用することは、混み合った場所、特に屋内や乗り物など換気が不十分な場所での感染予防策になります。

7. 職場の消毒

職場に感染者もしくは感染（疑念）者が発生した場合、消毒液の製作から作業の実施までを、コロナ消毒マニュアルに沿って実施して下さい。

<重要>消毒の考え方

感染（疑念）者自身の机、椅子、そのフロアのトイレとドアノブ、階段手摺り、エレベーターのボタンを消毒対象とします。ただし、その他のフロアなどについても必要に応じて消毒対象とします。

発熱による自宅待機者が出た場合の清掃に関して

1. 目的

感染（疑念）者がウイルスを付着させた可能性がある箇所を消毒し、接触による二次感染を防ぐ。

2. 備物

- ・ 保護具（使い捨て手袋、マスク、可能であればエプロン、ゴーグル）
- ・ 消毒液（70%程度の消毒用エタノール、または、ハイターなどを用いて **0.05%**次亜塩素酸ナトリウムを作成）
- ・ 紙ナプキン、タオル等、破棄可能なふき取り掃除具
- ・ バケツ
- ・ 大きなゴミ袋×2

3. 方法

- ① ゴーグル、手袋等の保護具を着用します。
- ② 消毒液をバケツに準備します。これで十分に湿らせた掃除具で、当該者の接触可能性が高い場所を拭き掃除します。具体的な箇所として、「感染（疑念）者が主に活動する席などから半径約 2m の範囲で、よく手が触れるところ（デスク上、椅子の手すりなど）」、「建物・トイレのドアノブ」などです。
- ③ 掃除用品、保護具を破棄する際には、手順に注意をお願いします。
 - i. 掃除用品を捨てます。
 - ii. 手袋を添付の画像に従って外して破棄し、手をエタノール等で消毒します。
 - iii. ゴーグルの表面以外を触り、外して捨てます。
 - iv. エプロンを添付の画像に従って外して破棄します。
 - v. マスクをゴム部分だけを触って外した上で、破棄します。
 - vi. もう一度、手の消毒をします。
 - vii. 上記が入ったゴミ袋を、もう一度、別のゴミ袋に入れ、廃プラスチックとして破棄します。

4. 注意事項等

- ・ 消毒液の噴霧はウイルスを吹き飛ばし、空気中に舞わせる可能性があるので厳禁です。
- ・ 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させます。金属に使用した場合は、消毒液が乾燥して 10 分程度たった後、水拭きをしてください。金属部品の消毒エリアが大きいのであれば、エタノール系の消毒液を使用するのが望ましいです。
- ・ 消毒液の原液には、皮膚や眼に対する毒性があります。準備の際には、手袋・ゴーグル等の保護具の着用を徹底しましょう。
- ・ 作成した消毒液は取り置きできません。使い切りを原則とし、もし、残る場合は、紙タオル等、ふき取りに準備した用具にしみこませ、ゴミ袋に破棄してください。
- ・ 消毒液の濃度は厚生労働省の指針に準拠しております。

出典：厚生労働省『新型コロナウイルス対策 身の回りを清潔にしましょう。』

URL: <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000614437.pdf>)



(1) 皮膚に直接触れないようにする。



(2) 手袋の内側が表になるよう静かに外します。



(3) 外し終わったら手袋を、手袋をした方の手の中に丸めます。



(4) 手袋を外した手の指先を、もう一方の手袋の内側に差し入れます。



(5) そのまま引き上げるようにして外します。



(6) ひと塊となった2枚の手袋をそのまま廃棄します。



(1) 首ひもを引きちぎります。



(2) エプロンの上半分を前にとらします。



(3) エプロンの表側に触れないように、エプロンのすそを内側から持ちすくい上げます。



(4) 折りたたんだ状態で腰ひもを引きちぎります。

次亜塩素酸ナトリウム溶液「ハイター（塩素系）等」5～6%原液を使用する場合の原液の量

濃度	0.05%(500ppm)
作りたい量	
500ml (0.5L)	5ml+水495ml
1000ml (1L)	10ml+水990ml
2000ml (2L)	20ml+水1980ml
3000ml (3L)	30ml+水2970ml
4000ml (4L)	40ml+水3960ml
5000ml (5L)	50ml+水4950ml

* 通常、ハイター容器のフタに入る量は25ml、ペットボトルのフタに入る量は5ml